
flower

T-K

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

flower

【コード】

N7667Q

【作者名】

T-K

【あらすじ】

夜寝る前にふと思いついた物です。

僕は野良猫

誰にも縛られない気まぐれ者

何時ものように町を歩いてると

一輪の花が大量のごみ袋の上にポツンと捨ててあった。

花の事なんて僕は全然解んないから

何て名前の花なのかはさっぱり。

でもとっても綺麗……

こんな綺麗な花を捨てるなんて

人間って見る目ないな

僕は口にそれを加えて歩き出す

縄張りである近くの空き地に戻り、仲間達に花を見せると彼等は背背笑った。

お前バカだな、それは造花って言って人間が作った作り物なんだぜ？

作り物？

ああ、だから土に埋めたり水とかやっただって無意味だぞ。いい飾りにはなるかもな？

これが作り物？

信じられない、こんなに綺麗なのに・・・

僕は自分の寢床の色んな所にその花を飾ったけど今一しっくり来ない。

やっぱり花は地面から生えてる方が花らしいよ

僕はそれを土に埋めて添い寝する。

僕は野良猫

気に入った物は直ぐに独り占め

翌日

そうだ。花には水をあげなきゃ。

僕は毎日その花に水を与えた。

捨ててあった紙コップに水溜まりの水とかを灌いで花に浴びせてあげる

他の仲間達は誰もが僕を呆れた目で見る

アイツ大丈夫か？

作り物と本物も見分けられないのか？

ああ言うのが居るから俺らが人間に馬鹿にされるんだ

皆僕を罵った。

でも僕はこの花に水をあげたかった。

例え作り物だろうが本物だろうが綺麗な事に変わりはない。

だから水をあげたっかた。

僕はこの花が好きだから……

後でやっぱり欲しいなんて言われてもやるもんか。

僕は野良猫

誰にも指図は受けず気ままに生きる

それから数カ月が経過したある日の事

たまたまなく悲しい事がおこった。

あまりの悲しさに目の前が見えない。

どうして前が見えないの？

ああ、そうか・・・

僕は今・・・泣いてるんだ

外から帰って来た僕は何がどうなってるのか解らなかった。

けたたましい轟音と共に縄張りに入ってくる大きな車。

後ろにはネズミ色の固そうな筒みたいな物が何本も積み重なっている。

他にも沢山の土を運び混んでいる車も土煙を上げて目の前の芝生を踏み荒らす。

他の仲間たちが逃げていく。

咄嗟に僕は自分の寢床に向かって走った

そして僕の視界にあの大きな車に轢かれた

あの花が映し出される。

愕然としているの僕のすぐ横にあの大きな車が迫ってくる。

考える暇もなしに折れた茎を口にくわえ、その場から立ち去った。

暫く歩いたところで僕は大きなごみ捨て場の近くにたどり着いた。

そこでちょうどいい土を見つけそこを掘り起こし小さな穴を作った。

かつて自分が大事にしていた物を埋める為に。

埋める前に僕は大事にしていたそれ一度眺めた。

茎は折れ曲がり、花卉は千切れ、もはやあの綺麗な花は見る影もない。

僕は泣きながら土にそれを埋めた

泣いた

ぐす……

たまらないくらい泣いた

うつっ……

何日も、何週間も、何カ月も

ぐすっ……

涙は止まってくれなかった

溢れる涙は何時までも何時までも

花を埋めた場所に落ち続けた

.....

それからどれだけ経ったのだろうか

僕はいつの間にか眠っていた。

目は閉じていたけど体が暖かったので朝の光が僕を照らしているのが
解った

もう泣くのも疲れた

考えて見れば僕はどうしてどうしてあの作り物の花に彼処まで肩入れしたのか自分でも不思議に思う。

もうここにも仕方ない。もうここには何も無い。

僕は眠い目蓋をゆっくりと開けていく

そして僕は見た

目
の
前
に

あの造花を埋めたその場所に

小さな芽が生えてるのを・・・

僕は野良猫

僕の涙で花は本物に変わった

僕は野良猫

独り占めしたものは大事にする

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7667q/>

flower

2011年10月10日00時12分発行